

令和3年度 板橋区立美術館運営協議会 会議概要

開催日時	令和3年11月30日(火) 10時00分から11時30分
開催場所	板橋区立美術館講義室
出席者	17人 [委員] 岸委員、榊原委員、佐藤委員、柴田委員、返町委員、寺田委員、長田委員、安村委員、山崎委員 [区職員] 坂本区長、森区民文化部長、折原文化・国際交流課長、松岡美術館長、坂本館長代理、弘中学芸員、印田学芸員、高木学芸員
会議の公開 (傍聴)	<u>公開(傍聴できる)</u> 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)
傍聴者数	0人
議題	1 報告事項 令和2年度 事務実績報告 2 審議事項 ① 令和4年度 展覧会展示計画及び概要 ② 令和4年度 展覧会内容 ③ 令和4年度 教育普及事業計画
配付資料	① 令和3年度「板橋区立美術館運営協議会」次第 ② 令和3年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿 ③ 令和2年度 事務実績(総括) ④ 令和4年度 年間展示計画 ⑤ 令和4年度 教育普及事業計画
所管課	区民文化部 文化・国際交流課 美術館 3979-3251

議事状況
(会議概要)

(司会：折原文化・国際交流課長)

【委員委嘱】

【区長挨拶】

【会長互選】

※出席委員の推薦及び総意により、寺田農委員に引き続き会長をお願いすることとなった。また、会長の職務代理には寺田会長の指名により返町委員をお願いすることとなった。以下会長を進行役とし議事進行した。

寺田会長（以下、会長）：それでは、改めて議事に入らせていただく。

【報告事項】

（松岡館長が資料の1頁から4頁に基づき「令和2年度事務実績」について説明）

委員：コロナ禍で他の展覧会もダメージを受けているが、その中で検討している要因の一つとして、自ら作品を所蔵していることが大きい。さまよえる絵筆のように自らの所蔵作品から広がりを持たせていく様な取組が必要である。

【審議事項】

会長：次に、令和4年度展覧会、展示計画など概要について説明をお願いします。

（館長及び各担当学芸員が資料5頁～14頁に沿って展覧会の内容を説明）

●質疑

委員：建部凌岱展は意義のある美術史的にも画期的な展覧会である。図録などを作成すると思うが、後々まで残るものである。板橋でもこれしかないといったものをたまにやらないと特色がでない。ただし、集客は望めないと思われるので外部から申し述べておく。

次に、「そろそろわいわいひとだらけ」については、人物画だけを並べても一般の方には伝わらないので、人物画や肖像画から群衆に向くなりストーリーを描いていかないと、ただ、人物画が並んでいたなと思われてしまう。

委員：古美術のみならず、近代にいたる展覧会の開催について敬意を表するとともに三浦太郎展を開催する経緯を聞いて感動的ですからある。

池袋モンパルナス展について3箇所の巡回展を作っていくにあたってそれぞれの学芸員がそれぞれ意見を出し合っているということだが、もう少し詳しく教えて欲しい。

弘中：この展覧会は総務省の外郭団体である一般財団の地域創造が主催されたものである。各館が持っている池袋モンパルナスの作品で市町村民立美術館活性化事業ができないかと声掛けで始まった事業である。当館が持っている池袋モンパルナスの作品47点においても、展示する作品選びや解説・肖像権のアドバイスやカタログの作成などの意見交換をオンラインなどを活用して行った。

委員：展覧会の内容は3館で決めたのか。

弘中：それぞれの学芸員が中心となってアドバイスを受けながら館の意見をまとめ決定している。

委員：池袋モンパルナスというテーマでやるというのは誰が決めたのか？

弘中：地域創造が決めたものである。

館長：ユニークな取り組みではあったが、手間のかかる事業であった。地方の学芸員が作品の選定に向けて来館した際に、一つ一つの作品を当館の学芸員が解説と作品選定、さらに展示に際しても配置などのアドバイスを行った。

池袋モンパルナスというテーマを地方の学芸員の方と一緒に行うということは非常に意味のあることで、作家のほとんどが地方出身の方なので、それぞれの地域においてこの展覧会を通して作家の研究を行なうということで非常に意義のあるものだったと考えている。

会長：今後も第2弾、第3弾と続く計画はあるのか。

弘中：今はまだ具体的にはないが近代美術では「池袋モンパルナス」に限らず「日本のシュウルレアリズム」なども紹介できると思うので、色々な美術館とつながっていければいいと思っている。

委員：昨年はコロナ禍で数々の制限がある中、やれることは何でもやるという話を聞いて館長の話聞いて、心強く感じる。

会長：次に、令和4年度の教育普及事業について説明をお願いします。

(館長が内容を説明)

館長：教育普及事業は展覧会の枠の中で行う事業と独立して教育普及事業として行う事業の二つの流れがある。

展覧会に付随して行う教育普及事業は講演会やワークショップといったものであり、独立した教育普及事業としてこれまでは絵画教室やひよこ・たぬきアトリエといったファミリープログラムを打ち出してきた。今後、その手法に代えひとつは区が絵本のまちを推進していくということで、絵本に関する事業を大きく展開していく流れになっておりこの事業を中央図書館と美術館が連携して進めることとなっている。

P15の資料のとおり、「絵本のまち板橋」推進方針に基づき美術館の教育普及事業を一体化させて行い、これまでの形を代えて絵本関係の実技講座を行なっていくこととなった。絵本作家とともにワークショップも年間を通して開催していく。図書館でも編集者が自分で作った絵本の講演会を16回ほど行うなど、実施場所が図書館でもその企画を美術館がタイアップして進めていく。

その他、教育普及活動とは別に今年はポローニャ絵本さんぼとして区内の本屋やカフェなどの協力のもとへ本関係の展示を行い散歩できる企画を実施した。

こうした区の企画とまちがタイアップした取り組みを関係組織と連携して美術館のもつネットワークや発想力を活かしていければと考えている。

●質疑

委員：予算的には美術館とは違った事業となるのか。

館長：予算の取りまとめをブランド戦略担当課という部署が行なっている。

委員：美術館の新たな展開と区そのもののいわばまちづくりといった展開がみごとにマッチングした素晴らしい取り組みである。

もともと美術館という閉じられたアート空間が生活とどのように繋がりを持つていくのか課題意識を持っていたところであるが、美術館の持つ蓄積と特質力が区の経済力・文化力と深く関わりことで新しい展開を期待する。

委員：自分が住む舟渡地区は地域図書館とかもなく情報が伝わりにくい。できれば、外交とか広報活動を一層、充実してほしい。

委員：今世界中に中国人の留学生が多いということも理由の一つだと思うが、欧米で近代日本画の国際シンポジウムをすると、南画のシンポジウムが開催されている。近代日本画の研究者たちはエリアで研究していて中国語と英語と日本語の三ヶ国語でやっている。

日本の広い地図の中では、日本の南宗画を見るが、日本の方で英語、日本語、中国語をできる人はあまりいないため、研究が展開されてこなかったが、今、西洋中心の軸で語られてきた近代の日本画が、中国との関係、近世から近代への見方というのが大きく変わりそうになってきている。全国の自治体で一番多い作品は南画であるが、近代以降の美術史で落ちているので、あまり研究されていないが、おそら

く世界的な情勢の中でも重要になってくるので、展覧会に人が入らなくとも凌岱や
椿山の展覧会は重要になってくるのではないか。

委員：収蔵品について、レオ・レオーニの作品 68 点寄贈を受けたとのことだが、この
作品を活かすために来年以降の収集作品に絵本関係を加える必要があると考える
が他の意見を伺いたい。

委員：収集にはひとつの柱だけではだめで、その周辺が固まることにより大きなプロ
ックとなって良い展覧会につながっていくものである。このコロナ禍でも、所蔵品
を持っている美術館が強みを発揮している。収蔵品を一つのポイントとして少しで
も良い作品を増やしていくことが必要である。

委員：他の館の動向を見ていると、収蔵品を持っている館はかなり自由に展覧会を開
催することができていると感じた。

収蔵品は今回のコロナ禍のように、いよいよとなった時に力を発揮する。収蔵品
を持っている館が館蔵品でどう見せるかどう楽しんでもらえるかといったところ
に特化して取り組んでいたと感じる。

是非、美術館のコレクション形成に力を入れていただきたい。

区長：レオーニ作品の寄贈の際にあたっては、レオーニ氏と美術館との長い付き合い
の中で関係が深まり絵本を大事にしてきた板橋を理解していただいたと感じる。

今後もジャンルは違っても、作家や活動を続けている方々と関係を強めていけれ
ばいいと感じている。

今回完成した中央図書館にはオープン時土日で1日 7,000 人位、今でも1日 4～
5 千人来館している。図書館と美術館が連携することにより世界でも稀な絵本の動
線ができると考えているので、今後とも皆様のご協力をお願いする。

会長：美術館ができてから東日本大震災など様々なことがありながらここまでやって
きて、その先を進めないリニューアルした意味がない。図書館との連携など、少
しずつでも変化していくことは良いことであり、学芸員が全員正規職員であること
が素晴らしい。引き続き、ご尽力いただきたい

これで令和 3 年度板橋区立美術館運営協議会を終了する。

[閉 会]

会議の概要は、以上のとおりである。

令和3年度板橋区立美術館運営協議会次第

日時:令和3年11月30日(火)

午前10時

場所:板橋区立美術館講義室

- 1 開 会 司会:文化・国際交流課長
- 2 委 嘱 式
- 3 区長挨拶
- 4 各委員紹介
- 5 会長互選及び職務代理指名
- 6 会長及び職務代理挨拶
- 7 議 事
 - (1) 報告事項 (美術館長)
令和2年度事務実績報告
 - (2) 審議 (美術館長)
 - ①令和4年度展覧会展示計画及び概要 (美術館長)
 - ②令和4年度展覧会内容 (各担当学芸員)
 - ③令和4年度教育普及事業計画 (美術館長)
 - (3) その他
- 8 閉 会

令和3年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿

(五十音順)

氏名	現職等	専門分野
岸 ユキ	女優・画家	現代美術
榑原 悟	岡崎市美術博物館 おかざき世界子ども美術博物館館長	古美術
佐藤 道信	東京藝術大学美術学部教授	現代美術
柴田 和豊	東京学芸大学名誉教授	美術教育論
返町 勝治	板橋区美術家連盟代表	美術家
寺田 農	俳優・池袋アトリエ村関係者	企画・運営
長田 謙一	首都大学東京客員教授 千葉大学名誉教授	西洋美術 芸術学
降旗 千賀子	フリーランスキュレーター 東京藝術大学客員教授	教育普及
安村 敏信	(一財)北斎館館長	古美術
山崎 洋子	元カフェボローニャ代表	地域文化

任期:令和3年11月1日～令和5年10月31日

令和2年度事務実績（総括）

1. 展覧会観覧者数

2年度		元年度		30年度		29年度	
6本	30,159	7本	37,417	3本	5,486	8本	58,095

2. 教育普及事業参加者数

(1) 展覧会にかかる講演会・イベント等

2年度		元年度		
講演会	—	778	107	1,200
イベント	—	837	—	556
計	0	1,615	107	1,756

(2) 各種技法講座・教室・各アトリエ

*印は小学校美術鑑賞教室を再掲

2年度		元年度		30年度		29年度	
1回	8	24回	582	11回	254	42回	1,432
*なし		*1校1回 69人		*なし		*8校9回 676人	

*オンラインワークショップを実施

3. 自主サークル支援事業参加者数

2年度		元年度		
アトリエ	293	387	114	1,777
講義室	0	0	0	0
計	293	387	114	1,777

4. 入館者数合計 (1+2+3)

2年度	元年度		
30,460	40,001	5,961	63,060

令和2年度 美術館展覧会観覧者数

展覧会名	期間	開館日数	観覧者数	内 訳					うち招待免除	1日平均	観覧料
				幼児	小・中	高・大	一般	高齢			
物語の庭 「深井隆彫刻展」	4月1日 から 6月28日	29日	1,768	36	42	81	1,235	374	312	61	有料
館藏品展(古美術) 「狩野派学習帳」	7月11日 から 8月10日	27日	4,189	81	82	76	2,429	1,521		155	無料
2020イタリアポロニーヤ 国際絵本原画展	8月22日 から 9月27日	33日	6,532	437	434	176	4,815	670	1,731	198	有料
だれも知らない レオ・レオーニ展	10月24日 から 1月11日	63日	16,690	1,376	1,298	656	12,045	1,315	3,373	265	有料
「区立小・中学校 作品展」	1月19日 から 2月21日	0日	0								無料
さまよえる絵筆	3月27日 から 3月31日	4日	242	4	7	8	137	86	48	61	有料
佐藤太清記念 中学生絵画展	2月18日 から 2月21日	4日	738	26	37	29	409	237		185	無料
		160日	30,159	1,960	1,900	1,026	21,070	4,203	5,464	188	

1 技法講座・教室・各アトリエ

No.	事業名	内 容	講 師	実施回数	延人員
1	ライブイベント とびだすカード「パク パクさん」をつくろう	小学2～6年生を対象にライブ配信 で絵本製作に関して指導を行う。	岡村志満子 (グラフィックデザイナー)	9月22日	8
合 計					8

コロナによる影響【臨時休館R2.4.4～5.29(56日間)、R3.4.26～5.31(36日間)】

展覧会名	概要	具体的内容	
		変更前	変更後
深井隆～物語の庭～展	会期延長、講演会の中止 (途中臨時休館あり)	R2.3.7～5.10(56日間)	R2.3.14～6.28(44日間) (臨時休館R2.4.4～5.29) 動画配信
だれも知らない レオ・レオーニ展	会期変更し年末へ	R2.5.23～6.28(32日間)	R2.10.24～R3.1.11(63日間) 動画配信
古美術館蔵品展	オリンピック延期に伴いタイトル変更、展示縮小、講演会の中止	東京オリンピック記念 「江戸絵画の五つの輪」 R2.7.11～8.10(27日間)	「狩野派学習帳」 R2.7.11～8.10(27日間) 動画配信
イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展	パラリンピック延期に伴いタイトル変更、「触る」展示の縮小・予約制入館制限実施、イベントの縮小及び実施方法の変更(動画配信へ)	東京パラリンピック記念 2020イタリア・ボローニャ国際 絵本原画展 R2.8.22～9.27(32日間)	2020イタリア・ボローニャ国際 絵本原画展 R2.8.22～9.27(33日間) 動画配信(オンラインワーク ショップあり)
区民文化祭	中止	R2.10.14～11.8(19日間)	中止
近現代館蔵品展	中止 (レオーニ展会期変更のため)	「寺田政明と古沢正美の時代～ 池袋モンパルナスから板橋・前野 町へ」 R2.11.13～R3.1.14(47日間)	中止
小中学校作品展	中止	R3.1.19～2.21(28日間)	中止
佐藤太清中学生絵画展	会場変更 (成増アクト→区立美術館)	R3.2.18～2.21(4日間)	R3.2.18～2.21(4日間)
近現代企画展	会期変更し年度末へ、 タイトル変更 (臨時休館あり)	「転換期のリアリズムと前衛」 R3.2.26～4.7(35日間)	「さまよえる絵筆～東京・京都戦 時下の前衛画家たち」 R3.3.27～5.23(26日間) (臨時休館R3.4.4.26～5.31)
展覧会総日数		253日	160日

その他(教育普及)	概要	変更前	変更後
美術講座	中止	1回2H×10回	中止
子供向け教室	動画配信へ変更	1回2H×2回/1日×6日	動画配信2回

令和4年度 年間展示計画

会 期	展 覧 会 名	概 要	料 金
3月12日(土) ～ 4月17日(日) 32日間	特別展 古美術 「建部凌岱展」	津軽藩の家老の家に生まれ、江戸と京都を拠点に全国を遊歴した建部凌岱は、軽妙な俳画や豪放な筆さばきの花鳥画を得意とし、複数の画譜も出版しました。本展は、その画業を中心に、俳人、歌人、随筆家、読本作家、国学者などとしても名をはせた凌岱について絵画作品を中心にご紹介する、初めての本格的な展覧会です。	有料
4月29日(金) ～ 6月5日(日) 33日間	館蔵品展 区政90周年記念 近現代「井上長三郎・寺田政明・古沢岩美の時代—池袋モンパルナスから板橋へ—」	井上長三郎(1906-1995)、寺田政明(1912-1989)、古沢岩美(1912-2000)は画家を志して上京し、戦前は池袋モンパルナス、戦後は板橋区で暮らしました。フォービズムやシュルレアリスムなどの前衛表現に刺激を受け、それぞれの画風を確立した彼らは、戦後日本の洋画壇をリードする存在になります。板橋区立美術館の所蔵作品で彼らの魅力に迫ります。	無料
6月25日(土) ～ 8月7日(日) 40日間	2022イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	今回で開催56回目を迎えるイタリア・ボローニャ市で毎年開催されている世界最大の規模を誇る絵本原画コンクール。世界中の新人イラストレーターの登竜門とされている国際コンクールの入選作品を展示します。板橋では42回目を迎えます。	有料
8月27日(土) ～ 10月2日(日) 32日間	館蔵品展 区政90周年記念 古美術「ぞろぞろ・わいわい・人だらけ—狩野派もそれ以外も(仮称)」	当館のコレクションには、江戸時代を中心に個性豊かな人物画が揃っています。他者との心や体の距離感を考えさせられる今日、本展では、これらの作品を密を厭わず数多くご紹介したいと思えます。一堂に会した画中の人びとを、どうぞお楽しみ下さい。	無料
10月13日(木) ～ 11月6日(日) 19日間	区民文化祭	区民書道展 [10/13～10/16] 4日 美術家作品展 [10/19～10/23] 5日 区民美術展 [10/26～10/30] 5日 書家作品展 [11/2～11/6] 5日	無料
11月19日(土) ～ 1月9日(月祝) 40日間	特別展 絵本 「三浦太郎展」	三浦太郎は「ボローニャ国際絵本原画展」入選をきっかけにヨーロッパで絵本作家としてデビューし、2005年に国内で初めて出版した『くつついた』で一躍赤ちゃん絵本の名手として注目されることとなりました。一方で、ステンシルを使って制作した絵画を発表するなど活動の幅を広げています。本展は、三浦太郎の初めての大規模な展覧会として、絵本の原画や資料、大型の絵画作品をはじめ、これまでの活動をふりかえるとともに、本展のための新作も紹介する予定です。	有料
1月17日(火) ～ 2月19日(日) 28日間	区立小・中学校 作 品 展	中学校作品展 [1/17～1/29] 12日 小学校児童作品展 [2/2～2/19] 16日	無料
1月26日(木) ～ 1月29日(日) 4日間 成増ア外ホール	佐藤太清記念 中学生絵画展	佐藤太清記念青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画作品を広く公募し、展示。また京都府福知山市が全国の高・大学生から公募した絵画作品の巡回展を同時開催します。	無料
3月18日(土) ～ 4月16日(日) 28日間	特別展 古美術 「椿椿山展」	19世紀に江戸で活躍した椿椿山は、関東の文人画を語る上で欠かせない人物です。その写実表現や軽やかな色彩感覚は後世にも大きな影響を与えました。本展では肖像画や真景図など、重要文化財に指定されている貴重な作品も展示いたします。	有料

たけべりょうたい
「建部凌岱展—その生涯、酔たるか醒たるか」

趣 旨 江戸中期に活躍した建部凌岱（1719 - 74 綾足、寒葉斎などと号す）の、初めての本格的な展覧会を行います。凌岱は、弘前藩の家老喜多村家の次男として江戸で生まれ弘前で育ち、20歳で出奔した後は全国を遊歴しながら俳諧で身を立てました。絵画にも専念し、軽妙な俳画から長崎遊学で習得した花鳥画や山水画まで幅広く手掛け『寒葉斎画譜』『建氏画苑』等の画譜も刊行しました。粗く大胆な筆遣いの作風を主とした凌岱の作品の中でも、海の魚が乱れ泳ぐ「海錯図」と呼ばれる作品群からは、ユーモア溢れる一面も窺えます。

本展を通じて、凌岱の画業を中心とした多彩な活動についてご堪能いただければ幸いです。

会 期 令和4（2022）年3月12日（土）～4月17日（日）
【32日間】

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日 月曜日
（但し3月21日（月）は開館、3月22日（火）は休館）

主催・会場 板橋区立美術館、東京新聞

観 覧 料 一般650円、高・大生450円、小・中学生200円

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展 示 点 数 屏風、掛軸、版本など約80点（予定）

区制 90 周年記念事業 館蔵品展

「井上長三郎・寺田政明・古沢岩美の時代

ー池袋モンパルナスから板橋へ」

趣 旨

井上長三郎（1906-1995）、寺田政明（1912-1989）、古沢岩美（1912-2000）は画家を志して上京し、戦前は池袋モンパルナス、戦後は板橋区に住居兼アトリエを構えました。戦前に海外より紹介された、フォービズムやシュルレアリスムをはじめとする表現に刺激を受け、それぞれの画風を確立した彼らは、戦後日本の洋画壇をリードする存在になります。

板橋区立美術館では、開館直後より 1979 年「井上長三郎展」「寺田政明回顧展」、1990 年「受贈記念 寺田政明展」、1982 年「古沢岩美展」、1994 年「白井謙二郎・古沢岩美展」、2007 年「新寄贈品による古沢岩美展」、2015 年「井上長三郎・井上照子展」をはじめとする展覧会で彼らの作品をご紹介してきました。

区政 90 周年にあたり、板橋区を代表する 3 人の画家を当館のコレクションのみで一堂にお見せします。本展に合わせて、板橋区で学ぶ小学生に向けた 3 人の画家を紹介する冊子を作成し、板橋区図工部会の先生方と連携した鑑賞プログラムを展開いたします。

会 期 令和 4（2022）年 4 月 29 日（金）～6 月 5 日（日）

【33 日間】

開 館 時 間 9:30～17:00（入館は 16:30 まで）

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館

観 覧 料 無料

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、鑑賞教室

展 示 点 数 油彩画、デッサン、美術資料、他、約 90 点

「2022 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」(仮)

趣 旨 イタリアのボローニャで毎年児童書専門のブックフェアが行われます。本展はこのブックフェアが主催する子どもの本のイラストレーションのコンクールの入選作品を紹介するものです。国籍の異なる5人の審査員は毎年入れ替わり、多様性を重視して選考されます。また、出版・未出版を問わず応募できるため新人作家の登竜門としても知られ、多くの絵本作家を輩出してきました。

板橋での巡回は2022年で42回目となります。来場者には若者や家族連れも目立ち、またイラストレーターや出版関係者が多く訪れることも本展の特徴です。会期中には子どもや作り手に向けた講座やワークショップも予定しています。

会 期 令和4(2022)年6月25日(土)～8月7日(日)
【41日間】

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(但し7月18日(月)は開館し、19日(火)は休館)

主催・会場 板橋区立美術館、
JBBY(一般社団法人日本国際児童図書評議会)

観 覧 料 一般650円、高・大生450円、小・中学生200円

関連イベント ワークショップ、講演会

展 示 点 数 入選作品約400点

巡 回 予 定 西宮市大谷記念美術館、石川県七尾美術館、
太田市美術館図書館

区制 90 周年記念事業 館蔵品展

ぞろぞろ・わいわい・人だらけ

狩野派も、それ例外も

趣 旨 人びとの姿かたちを表現した日本美術には、数多くのテーマがあります。当館のコレクションには、江戸時代を中心に個性豊かな人物を描いた作品が揃っています。一例として、画中に集い交情を深める人たち、礼拝の対象とされる肖像画や神仙、憧れや好奇の眼差しを向けられた美人や異国の人の姿などがあります。それらからは、描かれた対象同士のほか、作り手や鑑賞者の関係など、作品をめぐる人と人との親密なつながりが見て取れます。

他者との心や体の距離感を考えさせられる今日、密を厭わず一堂に会した画中の人びとの姿かたちを、どうぞお楽しみ下さい。

会 期 令和 4 (2022) 年 8 月 27 日 (土) ~10 月 2 日 (日)
【32 日間】

開 館 時 間 9:30~17:00 (入館は 16:30 まで)

休 館 日 月曜日
(但し 9 月 19 日 (月) は開館、9 月 20 日 (火) は休館)

主催・会場 板橋区立美術館

観 覧 料 無料

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、ワークショップ

展 示 点 数 屏風、掛軸、卷子など約 50 点

「区民文化祭」

趣 旨 広く区民の美術・書道の普及、発展を図るため、区民参加による展覧会を開催します。

会 期 令和4年10月13日(木)～11月6日(日) [19日間]

(1) 区民書道展 10月13日(木)～10月16日(日) [4日間]

(2) 美術家作品展 10月19日(水)～10月23日(日) [5日間]

(3) 区民美術展 10月26日(水)～10月30日(日) [5日間]

(4) 書家作品展 11月2日(水)～11月6日(日) [5日間]

主 催 板橋区

共 催 板橋区文化団体連合会、板橋区書道連盟、板橋区美術家連盟、
(公財)板橋区文化・国際交流財団

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

「三浦太郎展」(仮)

趣 旨 三浦太郎は「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」入選をきっかけにヨーロッパで絵本作家としてデビューし、2005年に国内で初めて出版した『くっついた』で一躍赤ちゃん絵本の名手として注目されることとなりました。一方で、ステンシルを使って制作した絵画を発表するなど、幅広い活動を行っています。

本展は、三浦太郎の初めての大規模な展覧会として、絵本の原画や資料、大型の絵画作品をはじめ、これまでの活動をふりかえるとともに、本展のための新作も紹介する予定です。

会 期 令和4(2022)年11月19日(土)～1月9日(月・祝)
【41日間】

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(但し1月9日(月)は開館)
12月29日(木)～1月3日(火)

主催・会場 板橋区立美術館、
JBBY(一般社団法人日本国際児童図書評議会)

観 覧 料 一般650円、高・大生450円、小・中学生200円

関連イベント ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展 示 点 数 絵本に関する資料(絵本・原画・ダミー本等 約200点)、
絵画作品(約20点)、ほかインスタレーション

「区立小・中学校作品展」

趣 旨 小・中学校における書道・美術・図工学習の成果を展示し、広く
区民に鑑賞の機会を設けます。

会 期 令和5年1月17日(火)～2月19日(日)〔28日間〕
(月曜休館)

(1) 中学校美術展

1月17日(火)～1月29日(日)〔12日間〕

(2) 小学校児童作品展

2月2日(木)～2月19日(日)〔16日間〕

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

実施団体 板橋区教育委員会
板橋区立中学校教育研究会
板橋区教育会
板橋区立中学校教育研究会国語科研究部
板橋区立中学校教育研究会美術科研究部
板橋区教育会書写研究部
板橋区教育会図工研究部

「佐藤太清記念中学生絵画展」

趣 旨 青少年の美術教育の一層の充実を図るため、佐藤太清青少年美術
励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画美術作品を広く公募し、
「佐藤太清記念 中学生絵画展」を開催します。令和3年度で第19
回目の開催となります。

また、京都府福知山市が全国の高校生・大学生から公募した絵画作
品を展示する「佐藤太清賞公募美術展」の巡回展を同時に開催します。

展示構成 「中学生絵画展」 (中学生) 42点程度
・佐藤太清賞 1点
・板橋区長賞 1点
・特選 10点程度
・入選 30点程度

※それぞれに賞状と記念品を授与します。

「佐藤太清賞公募美術展」-福知山市分- 67点程度
・絵画の部 (高校生)
佐藤太清賞 3点
特選 9点程度
入選 29点程度
・日本画の部 (大学・専門学生)
佐藤太清賞 1点
特選 3点程度
入選 24点程度

※特選作品の中から各1点に板橋区長賞を授与します。

会 期 令和5年1月26日(木)～1月29日(日) [4日間]

主 催 板橋区立美術館

会 場 成増アクトホール

協 力 京都府福知山市

観 覧 料 無 料

つばきちんざん
「椿椿山展」(仮)

趣 旨 椿椿山(1801~1854)は、関東の文人画を語る上で欠かせない人物の一人です。江戸の地に生まれ、はじめ金子金陵に師事し、のちに渡辺崋山に絵を学びます。とくに花鳥画の制作に力を注ぎ、「^{かちん}崋椿系」と呼ばれた崋山と椿山の花鳥画作品は、近代以降の画家たちにも影響を与えました。さらに、崋山の「鷹見泉石像」(東京国立博物館蔵・国宝)に見られるような写生風の肖像画技法も弟子たちの中で唯一受け継ぎます。このように崋山の影響を受けながらも、椿山は淡い色づかいによる穏やかな画風を確立しました。この画風は近代以降の画家たちにも受け継がれていきます。

本展は、江戸時代の文人画における重要人物でありながら崋山というビックネームに隠れていた椿山を、関東で初めて本格的に取り上げる展覧会です。またリニューアルオープンによって展示環境が改善されたため、重要文化財に指定されている貴重な作品を複数展示する予定です。

会 期 令和5(2023)年3月18日(土)~4月16日(日)
【30日間】

開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、東京新聞

企画協力 安村敏信(元板橋区立美術館長・萬美術屋)

観 覧 料 一般650円、高・大生450円、小・中学生200円

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展 示 点 数 屏風、掛軸、版本など約70点

「絵本のまち板橋」推進方針

「絵本のまち板橋」を取り巻く現状と課題

- 【現状】（ブランディングの絶好の機会）
- 絵本への関心の高まり、堅調な市場推移
多様なテーマ・作品・作家の登場、アートとしての芸術的価値認知向上
 - 絵本に関する各種取組の充実
「ブックスタート」「朝の読書活動」等の一般化
 - 板橋区において、多様な個性豊かな絵本事業を展開

▼ しかし

- 【課題】（機会の活用にも余地、求められる次の展開）
- 「絵本のまち」の具体的なかつ統一的なイメージ・メッセージの不足
 - 板橋区の強みを生かした新たなブランド展開・強化の必要

▼ そこで

「絵本のまち板橋」に向けた解決策

- 「絵本のまち」の世界観とデザインを常に目に見えるところに

「絵本のまち」の世界観提示

- 区が実現するストーリーの発出
- 区民が実感できるストーリーの共有
→HP、印刷物、サイン、空間
→五感、行政サービスでもなしのし

統一感のあるデザイン

- VI（ビジュアル・アイデンティティ）設定
- ロゴデザイン
- 色づかい
- 書体
- フォントの要素
→区民とのあらゆる「接点」で活用
→デザインで「絵本のまち」想起

- 「絵本のまち」の世界観に「区の強み・思い」を積極的に展開

○ 「国際性・芸術性」「産業ものづくり」を活かした事業創出

板橋区の優位性（差別化ポイント）

ポロニーヤ市との関係
国際性・芸術性

全国トップの印刷業
産業ものづくり

○ 絵本がもつ魅力・特徴を志向する区政の表明

絵本がもつ魅力・特徴

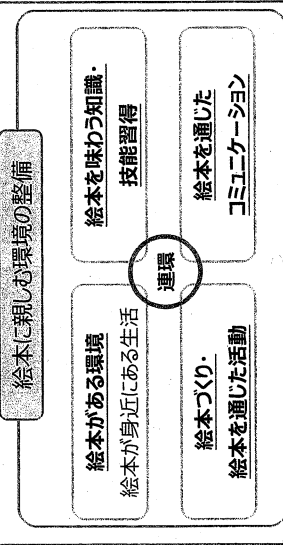
親しみやすさ
わかりやすさ

新しい発想・方法
見る人へのまなざし

「絵本のまち板橋」の世界観

絵本に関する資源を活かし、絵本に対する思いを乗せた、「絵本文化」の展開

絵本文化の「享受」（利用者目線）



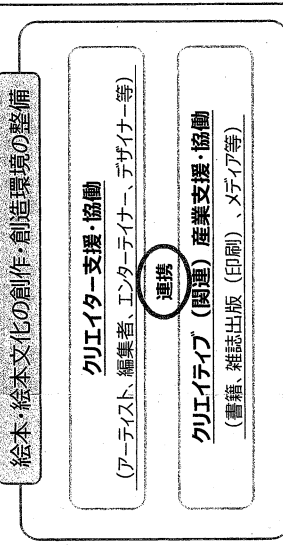
実現される価値

絵本に触れる・絵本を創る「喜び」

絵本で生まれる「結びつき」

絵本で刺激され・満たされる「探求心」

絵本・絵本文化の「創造」（創作者目線）



板橋区による絵本がもつ魅力・特徴の体現

「親しみやすさ」「わかりやすさ」、「新しい発想・方法」「見る人へのまなざし」を追求した展開（空間・サイン・刊行物・窓口・事業）

「絵本のまち板橋」のロードマップ（基本的枠組み）

	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
絵本文化の「享受」	現基本構想 No.17(2020)	2021 区制90周年	2022 既存事業実施、継続	2023 絵本に触れる・絵本を創る「喜び」	2024 絵本で生まれる「結びつき」	2025 絵本で刺激され・満たされる「探求心」	
絵本の「創造」	既存事業実施・拡大・転換 ○新規事業検討・準備 →予算化検討、事業構築	既存事業実施・継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援
絵本の「親しみやすさ」「わかりやすさ」	既存事業実施・拡大・転換 ○新規事業検討・準備 →予算化検討、事業構築	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	
絵本の「魅力・特徴の体現」	既存事業実施・拡大・転換 ○新規事業検討・準備 →予算化検討、事業構築	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	既存事業実施、継続 ○「芸術性」「国際性」「ものづくり」を高意識した事業展開の試行 ●絵本接触機会拡充（官民施設、各種展覧会、区発出版物） ●絵本の楽しみ方、読み聞かせ技能、アートとしての絵本啓発 ●おはなし会、異文化理解、コミュニケーションの場 ●絵本づくりワークショップ、翻訳実習、作家希望者支援	

展開の全工程において
エネスコ創造都市ネットワーク新規加盟
を常に意識

- 「エネスコ創造都市ネットワーク新規加盟申請」にかかる国内選考基準を意識した事業検討・構築、実施
- 「享受」「創造」及び「魅力・特徴の体現」の段階的実施、相互に関連付け一体となった展開

「絵本のまち板橋」の国内外での評価
「創造都市板橋」のブランド形成